



動物医科学研究センター



第1 動物センター



堆肥化施設



太陽光発電とジャイロミル型風車を利用した夜間照明装置

《目 次》

常に校友会のこれからを忘れないために	2
学部長就任にあたって	2
平成17年度総会・懇親会	3
平成16年度校友会決算および 平成17年度校友会会計予算	3
農学校友会（植物資源科学科）	4
紫友会（農芸化学科）	4
角笛会（獣医学科）	5
満喜葉会（動物資源科学科）	5
いもづる会（食品経済学科）	6
あすなろ会（森林資源科学科）	6
桜水会（海洋生物資源科学科）	7

工学会（生物環境工学科）	7
F T会（食品科学工学科）	8
拓友会（国際地域開発学科）	8
むつあい会（短期大学部農学科）	9
生活環境学科校友会 （短期大学部生活環境学科）	9
応用生物科学科校友会 （応用生物科学科）	10
支部だより	10
校友だより	11
校友会事務局からのお願い	12
校友会役員・事務局名簿	12

常に校友会のこれからを忘れないために

日本大学生物資源科学部校友会

会 長 茂 澤 杲



平成17年7月9日、日本大学生物資源科学部校友会総会において、私が会長に再選承認されました。特に会長選考委員会の慎重審議の経過を得て、選出再任された重みを忘れることなく、その責務を果たしたいと思えます。

直ちに新しい執行部を組織し、これから校友会を取り巻く環境の変化を的確に捉え、絶えず新たなビジョンを組立てる努力が、新執行部に課せられた使命と考え、幾つかの懸案事項に真摯に対処してまいります。

また、総務・財務・広報(企画)の三委員会を核として活動し、あるべき姿を提示し、それに向かって一気呵成に邁進してゆきます。

私の危惧することは、過去の壁に固執し、小手先の手直しに終わる改革では、誠に新体制の存在意義が問われることになり、結果として校友会の魅力が失われれば、校友自体が背を向けることになります。そうしたことの無いように、私は当初から学部校友会の会報を通して、校友皆さんに関心と理解を求めてまいりました。改

革は4年目に入ります。振り返って自立地助の精神に基づく日本大学校友会の遠大な構想については、平成14年学部校友会会報2002第55号の表題に「日本大学校友会の抱負」として、そのあらましを記載しました。翌年2003第56号では「日本大学校友会の新機軸」と題して具体的に考察し、昨年は2004第57号で今一度この改革の原点を詳述しました。そして校友皆さんの理解と協力の徹底化をのぞみました。

今年は、6月に総長選が7月に学部長選とあり、これから母校の大学像も、少なからず変革する時期と申せましょう。周知の通り、大学自体が、社会や産業界の要請に応じて変革しないと生き残れない厳しい時代となりました。大学は、選ぶ側から顧客である受験生・そして企業・社会から選ばれる側に変ってきております。

私自身客観的に見て思うことは、具体的に企業の求める人材を輩出しているだろうか。また、大学の知財を産業界にどう還元しているだろうか等です。この事は校友の間で語られています。結論として校友の皆さんの希望と期待は、社会にと

って頼りがいのある大学と感じました。これからは、教育・研究・社会貢献・経営の4分野で大胆な改革が進展するのではないかと思います。ありがたいことに母校生物資源科学部が、文部科学省の21世紀COEプロジェクト(国際的に通用する水準の研究拠点づくり)に連続2年選定されています。そして着実に研究成果を内外に発信され、高度な知見を蓄積されています。これは世界的にも大変に栄誉なことでもっとPRしても良いと思っています。斯様な母校を持つことは、私達校友会にとっても大いなる誇りであり、積極的に学部を支援し協力してゆく姿勢を貫かねばなりません。

これからは、学部当局からも、また正会員・準会員の皆さんに期待される魅力ある校友会創成を心掛け、結束して持てる英知を駆使し校友会活動の活性化を協力に推進したいと思えます。

どうか、校友会の存在感をいやが上にも高めるため、忌憚のないご意見ご要望ご支援を寄せられますようお願い申し上げます。

学部長就任にあたって

日本大学生物資源科学部

学部長 酒 井 健 夫



生物資源科学部校友会の皆様、皆様が生産現場をはじめ企業・官界・行政等の各分野でご活躍され、社会から高い評価を受けておられることに先ず敬意を表します。日本大学や本学部の名を社会に轟かせている校友の皆様は、本学部の誇りであり、また平素から本学部に対して有形・無形のお力添えをいただいていることに心より感謝申し上げます。

私は去る8月24日から生物資源科学部の学部長を勤めることになり、その重責を強く感じているところでございます。学部長就任にあたり、本紙面をお借りして校友の皆様にご挨拶させていただきます。

わが国は科学技術の進歩とエネルギーの大量利用に支えられて、いわゆる高度経済成長を遂げてきました。豊かで安定した生活を手に入れることに成功したわけですが、果たして我々の未来は希望に満ち溢れた状況と言えるでしょうか。現在では、地球規模の環境破壊や温暖化、人口の増加は深刻な問題であります。情報や流通のグローバル化は確かに人類に革命的变化や発展をもたらして来ましたが、逆に人類の福祉や社会の健全性に歪みを与える結果が生じてい

ることも事実であります。たとえば、貧富格差の増大をはじめ種々の局面における対立的二極化や世界各地で地域紛争を生み出してきたことなどが挙げられます。地球規模の観点に立って、人類の本当の幸福と物心両面の豊かさを追究する教育を展開し、社会に有為な人材を輩出することが強く求められていると感じています。

生物資源科学部は、動物・植物や微生物を含めた「生物資源の生産・利用の科学」、「生命科学」、それらを取り巻く「環境科学」、ならびにこれらの課題と密接に関わる「人間活動」をキーワードに位置づけていますので、人類社会の恒久的発展と地球環境の修復を担う本学部の役割は極めて大きいと考えています。本学部の教職員は丸となって、これらの課題に関する教育・研究指導に当たり、社会の期待に応えていく決意であります。

私は、これまで学務担当として、また6年間は学部次長として学部運営の施策の策定と遂行に参画して参りました。その経験を活かしアカデミックな雰囲気は漂う、日本大学内でも模範的な学部の構築に全精力を傾注いたす決意でございます。本学部を

更なる飛躍を図るために校友の皆様のご支援とご鞭撻を賜りたく存じます。

学部の社会的評価を向上させるには、出口管理である進路指導を更に充実させ国や地方公共団体の上級職員を多く輩出する必要があります。はいまでもありませんが、本学部には生産現場の技術職や実業界を志向する学生が多いのも事実です。そこで学生諸君には実学的教育に夢とロマンを抱かせる実際的な教育指導も不可欠であります。学生諸君が持つ多様な要望に対して、いずれの志向にも対応できる教育基盤の整備に努力し、在学生と卒業生が自慢できる母校生物資源科学部でありたいと強く願っています。

輝く歴史と伝統を誇る農獣医学部を発展的に改組して発足した本学部が、更なる飛躍を期するため校友会の皆様との緊密な連携が必要であり、さらに日本大学や社会から高い評価を受け続けていくには、校友の皆様のお力添えとご鞭撻を賜りますよう衷心からお願い申し上げます。次第であります。

末筆ではございますが、本学部校友会の皆様の一層のご活躍をお祈り申し上げます。私の挨拶といたします。

平成17年度総会・懇親会開催される

近年、総会・懇親会は学部内で開催されておりましたが、平成17年度総会・懇親会は、久しぶりで都心の赤坂プリンスホテル新館五色紺青の間で、7月9日(土)15時より開催されました。本江一郎事務局長の開会の辞に続いて、茂澤 晃会長から日本大学本部校友会の改組に伴い学部校友会の組織改革や事業の見直し、学部当局と校友会との更なる協力関係をふかめ、校友会の活性化と学部の発展につなげたいという挨拶があった。また、永年学部校友会の事務局員としてご尽力され病氣療養中であった石川(赤塚)女史がご他界されたという報告があった。会員の皆様と共に、心よりご冥福をお祈りしたいと思います。続いて農学校友会会長の楠元守氏が議長に選出され、書記指名の後、議事へ移った。

議題(1)の平成16年度一般経過報告について本江事務局長が行い、意義なく承認された。議題(2)の平成16年度決算報告について千野 誠会計担当からの報告に続いて議題(3)の監査報告があり、いずれも承認された。議題(4)の平成17年度事業報告について村田 昇総務委員長から資料に基づいて提案があり、一部訂正の上承認された。また、関連して学生の就職支援活動や会員名士の紹介等広報活動の強化が提案され、了承された。議題(5)の学部校友会会則改正についても総務委員長が



※上記写真をご希望の方はお分け(有料)致しますので、校友会事務局までお問合せ下さい。

ら説明があり、一部意見を加えて了承された。これは執行役員会と事務局長会議を新設し、校友会活動の活性化と発展および学部校友会と各分会の連絡を密にして絆が強固になることを期待して、企画・承認されたものである(学部校友会組織運営図参照)。議題(6)の役員改選については、石川稔矩会長選考委員長より6回に渡る会議で慎重に審議の上茂澤 晃現会長を次期会長として推薦したいと報告された。この選考委員会については昨年会則が変更となり会則第10条にしたがつて出来た会長

選考委員会である。また、会長の任期も3年3期であったが今期から3年2期と改められ承認された。次ぎに、総務委員の内田駿一氏から各分会から推薦された幹事氏名と会長代理・代行を置くことが提案され、具体的には常任幹事会で検討することで承認された。また、監事に遠藤 克・千田 徹・濱本和敏氏が、事務局長に世良田和寛氏の提案があり、承認された。さらに、相談役に富澤寿樹氏・桜木 進氏・村田昇氏が推挙され、承認された。

会長賞等の規程により、本年度は会長賞4名・感謝状8名の提案がなされ、懇親会の会場で贈呈されることが承認された。その他の議案はなかつたが、会場の三木会員より校友会活動の要望として校友会組織の活性化には準会員である学部在校生との交流と支援が大切でありこの問題については議題(4)でも検討されたように本年度の総会決議課題として各委員会でも検討してほしいとの提案がされ総会を開会した。

富澤寿樹副会長の閉会の辞の後、会場を『新緑の間』へ移し、石川稔矩総務委員の司会で懇親会が開催された。

茂澤会長の挨拶に続いて、総会で承認された会長賞を浜口喜博(拓殖昭24卒)・梅垣俊一郎(林学昭40卒)・楠元 守(農学昭34卒)・高橋文次郎(農学昭25卒)、感謝状を富澤寿樹(農経昭32卒)・桜木 進(水産昭36卒)・村田 昇(農工昭41卒)・山根勝次(農経昭27卒)・西山栄一(農学昭34卒)・木村貞司(元事務局長)・本江一郎(前事務局長)・赤塚久美子(事務局員)の各氏へ、会長から記念品と共に贈呈された。そして、生物資源科学部学部長・日本大学副総長佐々木恵彦教授をはじめ、多数のご来賓よりご祝辞を頂き、乾杯の後、和やかな懇親会が進行され、懐かしい学生時代に戻って、大いに旧交を温め懇親を深めることが出来た。最後に、参加者全員で記念写真を撮って、会報に掲載すると共に来年の呼びかけをし、来年の総会・懇親会へ多数ご参加を戴けることを、お願いして散会した。会員の皆様来年は是非ご参加くださいますように呼びかけをお願いいたします。

平成16年度校友会会計決算および平成17年度校友会会計予算

平成16年度日本大学生物資源科学部校友会会計決算 (収入の部)				
科目	予算	決算	差異	
1.前年度繰越金	4,626,064	4,626,064	0	
2.会費	23,400,000	24,070,800	△670,800	
3.預金利子	1,000	62	938	
4.雑収入	2,936	0	2,936	
収入合計	28,030,000	28,696,926	△666,926	
(支出の部)				
科目	予算	決算	差異	
1.分会交付金	11,790,000	11,790,000	0	
2.経常費	9,170,000	8,086,766	1,083,234	
(1)人件費	2,500,000	2,955,575	△455,575	
(2)本部分担金	470,000	470,000	0	
(3)事務局運営費	800,000	481,336	318,664	
(4)通信費	2,600,000	2,400,245	199,755	
(5)会合費	1,000,000	624,130	375,870	
(6)交際費	800,000	433,000	367,000	
(7)交通費	1,000,000	722,480	277,520	
3.事業費	5,200,000	3,221,030	1,978,970	
(1)名簿積立金	0	0	0	
(2)会報作成費	2,000,000	1,012,424	987,576	
(3)広報委員会運営費	100,000	40,000	60,000	
(4)総務委員会運営費	100,000	11,507	88,493	
(5)財務委員会運営費	100,000	6,599	93,401	
(6)記念事業費	200,000	200,000	0	
(7)名簿作成準備費	100,000	0	100,000	
(8)準会員対応費	1,500,000	950,500	549,500	
(9)会長賞記念品	100,000	0	100,000	
(10)基金積立金	1,000,000	1,000,000	0	
4.予備費	1,870,000	360,000	1,510,000	
当年度支出合計	28,030,000	23,457,796	4,572,204	
5.次年度繰越金	0	5,239,130	△5,239,130	
支出合計	28,030,000	28,696,926	△666,926	

平成17年度日本大学生物資源科学部校友会会計予算 (収入の部)				
科目	平成17年度	平成16年度	差異増減△	
1.前年度繰越金	5,239,130	4,626,064	613,066	
2.会費	33,800,000	23,400,000	10,400,000	
3.会費会費・祝金	1,650,000	-	1,650,000	
4.預金利子	1,000	1,000	0	
5.雑収入	79,870	2,936	76,934	
収入合計	40,770,000	28,030,000	12,740,000	
(支出の部)				
科目	平成17年度	平成16年度	差異増減△	
1.分会交付金	16,309,000	11,790,000	4,519,000	
2.経常費	12,220,000	9,170,000	3,050,000	
(1)人件費	3,000,000	2,500,000	500,000	
(2)本部分担金	470,000	470,000	0	
(3)事務局運営費	800,000	800,000	0	
(4)通信費	2,600,000	2,600,000	0	
(5)会合費	3,350,000	1,000,000	2,350,000	
(6)交際費	800,000	800,000	0	
(7)交通費	1,200,000	1,000,000	200,000	
3.事業費	8,300,000	5,200,000	3,100,000	
(1)名簿積立金	0	0	0	
(2)会報作成費	1,600,000	2,000,000	△400,000	
(3)広報委員会運営費	100,000	100,000	0	
(4)総務委員会運営費	100,000	100,000	0	
(5)財務委員会運営費	100,000	100,000	0	
(6)記念事業費	200,000	200,000	0	
(7)名簿作成準備費	100,000	100,000	0	
(8)準会員対応費	3,000,000	1,500,000	1,500,000	
(9)会長賞記念品	100,000	100,000	0	
(10)基金積立金	3,000,000	1,000,000	2,000,000	
4.予備費	3,941,000	1,870,000	2,071,000	
支出合計	40,770,000	28,030,000	12,740,000	

※本部校友会からの還付金が1～3年次分となり、予算の総額は新制度開始前の総額と同程度になりました。

平成17年度の校友会予算の変更点は次のようになりました。

- 1)総会・懇親会等の会費やお祝金を収入として計上しました。
- 2)経常費支出の「会合費」を1)の変更に対応させました。
- 3)準会員(在校生)への対応を強化するため「準会員対応費」を増額しました。
- 4)今後の校友会活動の蓄えとして「基金積立金」を増額しました。

【平成18年度総会・懇親会】

例年通り、その年の7月第2土曜日(7月8日)に総会・懇親会を本年と同様に赤坂プリンスホテルにて行います。ふるって参加されることをお願い致します。場所等が決まり次第、ホームページ(URL:<http://www.brs.nihon-u.ac.jp>)に掲載致しますのでご確認ください。また、案内状が届かない場合には、ホームページをご覧頂き、校友会事務局へご連絡下さるようお願い致します。

農 学 校 友 会

◇植物資源科学科◇

連絡先 作物学研究室
0466-84-3502 事務局長 藤井 秀昭
E-mail: fujiki@brs.nihon-u.ac.jp

平成17年度農学校友会 総会・懇親会開催



平成17年7月2日(土)午後1時20分から湘南キャンパス博物館棟第1会議室において平成17年度総会が開催されました。楠元会長の挨拶の後、議長として島津正氏(3期)が選出され、平成16年度事業報告、会計決算報告、会計監査報告があり、承認されました。続いて、平成17年度事業計画案、予算案が審議され、原案どおり承認されました。また、役員改選案が審議され、新理事として、会長:楠本守(13期)、副会長:石川稔矩(19期)、赤木洋行(26期)、庶務理事:勝野武彦(21期)、会計理事:飯島正一(25期)、理事:石井功(16期)、久保田昌幸(17期)、浅川廣治(18期)、鈴木清一(24期)、坂倉龍彦(29期)、坂本立弥(29期)、佐々木透(30期)、南尊雄(32期)、市川靖(37期)、和田薫(38期)、伊藤文喜(43期)、葉山博史(49期)、加藤誠(52期)、佐藤一朗(54期)、山澤直樹(56期)の各氏が承認されました。また、監査役として稲葉

敏雄(17期)、小林義雄(21期)両氏が選出されました。農学校友会個人情報保護規定が提案され承認されました。総会の後、多数の来賓と会員が出席した懇親会が本館力フェテリア“スエヒロ”で盛大に行われました。準会員である4年次学生、学科の先生方も出席しました。今春、楠元守会長が瑞宝小綬章をお受けになりましたことをお祝いし、島津正先生から花束が送られました。

学科行事への援助

新入生歓迎会、藤桜祭、収穫祭、卒業謝恩会に対し補助金を提供しました。また、卒業生全員に記念品を贈呈しました。

植物資源科学科の近況

【卒業・新入学生】

昨年度は159名の学生が卒業し、社会に巣立って行きました。4月には新入生133名(男子:69名、女子64名)を迎え、本年度は総数591名の学生が在籍しています。新入生オリエンテーションとして5月7日(土)に鵠沼海岸で地引き網大会が行われました。江ノ島名産のシラスが大漁で、学科教員といっしょに楽しい時間を過ごしました。5月28日(土)には学部運動会スポーツフェスタ2005が開催され、新入生中心の本学科チームは準優勝の成績でした。

【特別講義】

4年次開講の特別講義には、毎年農学校友



学部運動会スポーツフェスタ2005

会の諸先輩にも講師をお願いしております。本年度は、塩野晃一(作物学研究室)、香取正人(花卉園芸学研究室)、猪股雅人(果樹蔬菜園芸学研究室)、君塚千明(遺伝育種学研究室)の各氏にそれぞれご活躍の分野の解説をしていただきました。

【海外研修】

2年生から大学院生までの26名が参加した第4回台湾研修旅行が7月23日～8月7日の16日間にわたり国立中興大学(台中市)を基点に実施されました。校友の李玉程氏(48期)のご協力により、氏の経営する金車バイオテックの大温室を視察することもできました。

【人 事】

勝野武彦教授を引き継ぎ、平成17年度から井上弘明教授が学科主任に就任されました。学科は平成18年度から実施予定の新カリキュラムに向けて数年にわたる準備が最終段階に入りしました。少子化にともなう受験者数減少の中で特色ある内容が求められており、新主任の活躍が期待されます。6年間にわたり学科のためにご尽力いただいた長谷川円副手が本年3月末日をもって退職されました。後任として、本年3月に本学科を卒業された松原佳織副手が着任され、学科事務室に配属されました。



松原 佳織 副手

【訃 報】

学科の発展に多大な貢献をされ、農学校友会庶務理事、事務局長を勤められた坪木良雄元教授(作物学)が本年1月21日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(野村 和成)

紫 友 会

◇農芸化学科◇

連絡先 土壌学研究室
0466-84-3953 事務局長 隅田 裕明

平成16年度総会・紫友会創設50周年 祝賀会開催

平成16年11月21日(日)新高輪プリンスホテルにて平成16年度総会並びに紫友会創設50周年祝賀会が各校友会分会長をはじめ学部長以下執行部の諸先生方、更にはご退職されました元農芸化学科の先生方にもご臨席頂き、校友の皆様共々和やかな雰囲気の中盛大に挙行されました。

創設50周年の記念品として農芸化学科に学生実験室AVシステムが寄贈されました。また、創設50周年記念誌が発行され出席の方々に配布されました。

総会では茂澤泉会長の挨拶の後、平成15年度の事業報告、決算報告、監査報告ならびに平成16年度の事業計画、予算案について厳正に審議がなされ、いずれも承認されました。事務局より総会・懇親会の開催は今後2年に1回の開催との提案がなされ、承認されました。



平成17年度第12回紫友会 奨学生決定

紫友会40周年記念事業の一環として発足した紫友会奨学生の第12回生9名が、同奨学生選考委員会(有賀豊彦委員長)により厳正に選考され下記のように決定いたしました。

2年次 石原祐子、藤井千尋、村上仁美

3年次 岩川恒成、小坂勇人、深江美春

4年次 小島 彰、熊谷一樹、福澤 賢(敬称略)

農芸化学科の近況

農芸化学科は本年4月に新入生150名(男子:73名、女子77名)を迎え、総計616名(男子:304名、女子:312名)の学生が在籍しております。学科主任に有賀豊彦教授、生物資源科学研究科生物資源利用科学専攻主任に奥忠武教授が再任されました。また学部次長に徳山龍明教授が就任されました。

【訃 報】

農芸化学科の分子生物学分野にて大変ご尽力いただきました水野重樹教授(酵素科学)が本年1月11日食道がんのためご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

【山本一彦教授ご退職】

山本一彦先生は農芸化学科の第一期卒業生であり昭和39年以来土壌学研究室に勤務され、平成17年3月に退職されるまで41年間の長きにわたり本学科の教育と研究にご尽力いただき、本学科の発展に絶大なるご貢献をされました。先生の今までのご尽力に感謝するとともに、今後のご健康とさらなるご発展をお祈り申し上げます。

【人 事】

松下(旧姓三沢)聡美副手は本年8月末をもって退職されました。ご苦勞をねぎらうとともに、ご多幸をお祈りいたします。

本年4月1日に春見(かすみ)隆文教授(酵素科学)が独立行政法人食品総合研究所より着任されました。先生の益々のご活躍が期待されます。

野口 章先生(植物栄養生理学研究室)は本年4月に助教授に昇格されました。

平成15年度長期海外派遣研究員としてドイツ・ミュンヘン工科大学植物科学科に留学されておりました野口 章先生、アレキサンダーフォンポルト財団助成によりドイツ・マルティンルター大学ハレ・ビッテンベルグに留学されておりました川東正幸先生(土壌学研究室)は無事帰国なさいました。



春見 隆文 教授

紫友会事務局より

平成17年度より総会・懇親会の開催は2年に1回の開催となりました。総会・懇親会の開催されない年については理事会にて会計報告、奨学生表彰を実施し、毎年の校友会報発送時に理事会議事録を同封いたします。ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

校友会活動の一環として、紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が平成16年9月に開催されゼミコースの学生が優勝しました。表彰式の後、学生教職員、紫友会会長、副会長の方々を交えて懇親会が開催されました。

(荻原 淳)

角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医公衆衛生学研究室
0466-84-3386 事務局長 丸山 総一
E-mail:tsuno-2@brs.nihon-u.ac.jp

平成17年度角笛会総会開催

平成17年6月4日(土)、午後15時20分から日本大学湘南校舎第4講義室で、平成17年度の角笛会総会が開催されました。今回も、昨年度に続き、午前中は第43回日本大学獣医学会、午後からは角笛会という合同開催のスタイルでした。角笛会の幹事会、総会ではまず事務局より提出された平成16年度の事業報告、会計報告が、鳥海弘監事の監査報告の後、承認されました。続いて平成17年度事業計画案、同予算案が審議され、順当に承認、成立致しました。長年の懸案であった会則の改正についても、些細な修正の指摘を受けた後、承認されました。平成19年は、本獣医学科が発足して100年になります。その100周年記念事業案が事務局から提出され、満場一致で承認されました。また、角笛会功労者として、前静岡県支部長の浅川豊先生(昭22)、前大分県支部長の岡田統生先生(昭26)、茨城県支部長の苦瀬義雄先生(昭23)に記念品目録とともに表彰状が授与されました。

新支部長の就任に伴う幹事候補として青木孝之氏(栃木、昭27)、首藤健一氏(宮城、昭45)、佐藤利夫氏(静岡、昭22)、クラス幹事として清水輝男氏(平16)、小林由紀氏(平16)がそれぞれ新たに承認されました。

午後4時30分からNUホール3階にて催された懇親会には、茂澤生物資源科学部校友会長

をはじめ同僚校友会の来賓の方々、獣医学科教員を含め約70名に参会いただきました。中川会長の挨拶に始まり、前々会長の田中延吉先生の乾杯の後、和やかな雰囲気の中に、懇親会は進行し、会場のあちこちで談笑の輪ができていました。事務局長 丸山総一

獣医学科の近況

【動物医科学研究センター竣工】

動物医科学研究センター(表紙写真)は、文部科学省によって選定された学術フロンティア共同研究プロジェクト「人獣共通感染症のサーベイランスと制御」に基づき、研究の進展とその成果を社会へ還元することを目的として建設された先端的研究施設です。動物医科学研究センターでは毎月1回セミナーが開催されていますので、ご参加をお待ちしています。(http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/%7Enuvern/index.htm)

【ANMEC】

ANMECの増改築が完了し動物医療の新拠点として生まれ変わりました。延床面積は3,700㎡となり、診察系ゾーンでは診察室数が12となった他、新たに感染系の診察ゾーンも新設されています。また、最新鋭のMRI、CTも設置され、社会の求める高度な動物医療に対応できるように設備面での充実も計られています。

【獣医師国家試験】

第56回獣医師国家試験の結果が平成17年3月17日に発表されました。日本大学獣医学科からは新卒者149人が受験し、136人が合格しました。合格率は91.3%で新卒合格者の全国平均90.2%を上回りました。

【表彰、受賞】

獣医公衆衛生学研究室教授の丸山総一先生が「猫ひっかき病の疫学に関する研究」により日本獣医学会賞を受賞されました。

また、卒業生の岩坪澄美子さんが優等賞、成島理恵さん、竹下文瀬さんが学部長賞、小川美由紀さんが日本獣医師会会長賞をそれぞれ受賞されました。角笛会会長賞は、綿邊文朗さん、鈴木利奈さんに授与されました。

【博士(獣医学)の学位取得者】

今年度、大学院博士課程を修了し博士(獣医学)を取得された方は、岡林堅氏、小熊圭祐氏、長島奈歩氏、丸山治彦氏、三浦輝久氏です。

【退職】

井上裕基先生(魚病学)が退職されました。

【人事・昇格】

酒井健夫先生(獣医衛生学)が日本大学生物資源科学部長に就任されました。また、丸山総一先生(獣医公衆衛生学)が教授に、佐藤雪太先生(実験動物学)が講師に、それぞれ昇格されました。鈴木和彦先生が獣医伝染病学研究室に異動されました。

【新任】

北川勝人先生(総合臨床獣医学)、岡林 堅先生(獣医生化学)、大田一予さん(学科事務)が着任されました。(文責:椎橋 孝)



北川 勝人 専任講師



岡林 堅 助手



大田 一予 副手

満 喜 葉 会

◇動物資源科学科◇

連絡先 草地学研究室
0466-84-3652 事務局長 丹羽 美次
E-mail:niwa@brs.nihon-u.ac.jp

平成17年度満喜葉会活動報告

【満喜葉会役員会、新入生歓迎会の開催】

本年度の満喜葉会役員会は、平成17年5月28日(土)午後2時より日本大学生物資源科学部資料館2F第1会議室において開催されました。役員会は、内田駿一会長、ならびに丹羽美次新事務局長の挨拶の後、会則に伴い内田会長を議長として議事に移り、平成16年度事業報告ならびに決算報告が事務局よりなされ承認されました。また、監事より会計監査結果について報告がなされ、承認されました。続いて、平成17年度の事業計画ならびに予算案が事務局より提案され、審議の後、承認されました。

役員会開会の後、午後4時より場所を食堂棟に移し、恒例の動物資源科学科新入生歓迎会が、学科・満喜葉会の協賛で、学科学術研究部の協力のもと盛大に行われました。

【平成17年度満喜葉会総会の開催】

平成17年度満喜葉会総会が、平成17年6月4日(土)午後3時より、新宿マイシティ「ザ・バンケット」において行われました。総会は、内田駿一会長の挨拶により開会し、平成16年度事業報告ならびに予算案報告、平成17年度事業計画ならびに予算案審議、役員改選についての協議の後、無事閉会致しました。

学科の近況

【新入生】

本年度、152名(男子55名、女子97名)の新入生が動物資源科学科に入学しました。例年通り、本年度の新入生も女子の数が約100名と、学部の中で最も女子学生の多い学科となっています。

【第1動物センター竣工】

本年9月、第1動物センター(表紙写真)が竣工されました。本センター建設は、湘南キャンパス整備計画の一環として、昭和60年より学科動物舎として利用してきました9号館の解体・移転によるものであり、動物資源科学科のみならず、応用生物科学科、農芸化学科、食品科学工学科など、計13～15研究室が使用予定となっており、旧9号館の様な学科動物舎としてではなく、学部共有の動物飼育施設として開設されました。センターは、地上2階建て(1、2階完全分離型)で、1階にはヤギ、ブタ、イヌ、ウサギ、家禽などの飼育室や野生動物飼育スペース(当学科では飼養学、生産環境学、草地学、動物生殖学、動物生体機構学、野生動物学研究室が利用)が、2階にはラット、マウスなどの実験動物に対応した飼育室、実験処置室、行動解析室、洗浄滅菌室などが配置されています(当学科では動物育種学、動物生殖学、動物生体機構学研究室が利用)。特に、2階部分に関しましては、最近の動物倫理関連の諸事情により、旧9号館と比べワンランク上のセキュリティシステムを設けています。本センター開設により飼育面積、設備なども充実し、今後は更なる研究・教育活動の活性化が期待されます。

【新任】

平成17年4月1日付けで、佐伯真魚(サエキ・マオ)助手が採用されました。佐伯助手は平成6年3月北里大学獣医畜産学部畜産学科を卒業後、同大学大学院修士課程、日本大学大学院農学研究科畜産学博士後期課程単位取得満期退学、日本大学大学院研究生を経て、平成13年7月博士(農学)の学位を取得されました。その後、平成14年1月～(独)科学技術振興機構の重点研究支援協力員として、(独)農業・生物系特定産業技術研究機構・畜産草地研究所、家畜生産管理部飼料評価研究室に所属しておられました。現在は、草地学研究室に所属し、牧場実習等を担当されておられます。



佐伯 真魚 助手

【訂正】

前校友会会報(第57号)において、動物資源科学科研究室および所属教員の紹介を致しましたが、「動物生体機構学研究室(遠藤克教授、加野浩一郎助教授)」が抜けておりました。ここにお詫び申し上げます。

(山室 裕)

いもづる会

◇食品経済学科◇

連絡先 食品産業構造研究室
0466-84-3414 事務局長 大矢 祐治
E-mail: ooya@brs.nihon-u.ac.jp

《平成17年度幹事会・懇親会を開催》

平成17年度の幹事会・懇親会が6月4日(土)、湘南校舎本館10階の食品経済学科プレゼンテーションルームで開催されました。幹事会では平成16年度の活動・会計報告と17年度の活動計画・予算案の審議が行われ、役員の改選期にあたる今年の幹事会では新役員が選任されました。また、事務局長は斉藤武至先生から大矢祐治先生にバトンが渡りました。

◆いもづる会役員(2005～2007年度)

会 長 村山 進(前会長・10期)
副 会 長 中村 信也(前副会長・13期)
同 横川 屹(前副会長・21期)
同 斉藤 和子(前副会長・51期)
同 島田圭一郎(新・18期)
同 守山 友庸(新・31期)
会計監事 大川高太郎(前会計監事・41期)
同 伊勢 洋介(新・33期)
事務局長 大矢 祐治(31期)
次 長 木島 実(32期)

懇親会は本館地下一階にあるカフェテリアで行われ、学生幹事を含め50余名の参加者により和やかに行われました。



いもづる会 懇親会

《今、学科では》

【新入生】

今春、食品経済学科は女子学生46名を含む158名の新入生を迎え、恒例の新入生研修会は4月23日(土)に実施しました。研修会は新入生の相互交流の促進と、教職員および上級生とのコミュニケーションを図ることを目的に「アサヒビール神奈川工場」「かまぼこ博物館((株)鈴廣蒲鉾本店)」の2施設の見学・懇親会が行われました。

【食品ビジネス特別講義】

今年で14回目を迎える3年次開講の食品ビジネス特別講義は、9月6～8日の3日間、「アサヒビールの挑戦と成長戦略」と題して、アサヒビール株式会社の相談役瀬戸雄三氏他による集中講義と工場見学が行われました。

学内では、アサヒビールの挑戦と感動の経営、スーパードライの開発



新入生 研修会

とマーケティング、酒類業界の展望と将来の夢などをテーマにした興味深い内容の講義が行われました。

【人 事】

学科人事では川手督也助教授(前職・(独)東北農業研究センター勤務)、高橋徹助教授(前職・(社)農協共済総合研究所勤務(昭和59.3食経卒))、宮部和幸助教授(前職・(社)農業開発研修センター勤務(昭和61.3食経卒))の3教員と当学部国際地域開発学科卒業生の齋藤潤子副手が着任しました。学科のより一層の充実・発展が期待されます。また、楡山佳那子副手は一身上の理由により3月末をもって退職されました。

【訃 報】

上路利雄先生はご病気により4月24日永眠されました。享年61歳。謹んでご冥福をお祈り致します。

【学科Home Page】

<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/>
から食品経済学科をご覧下さい。

あすなる会

◇森林資源科学科◇

連絡先 森林環境保全研究室
0466-84-3675 事務局長 石垣 逸朗
E-mail: i-ishigaki@brs.nihon-u.ac.jp

あすなる会の活動報告

例年、学科の活動に対してあすなる会から様々なご支援をいただいております。本年度もこれまでに3件の補助をいただいておりますので、ご紹介いたします。まず、5月に行われた学科就職セミナーでは、当日お越しいただいた学科OB、OGの方々の交通費への補助を、また、6月に行われた新入生の軽井沢実習では、ボランティア上級生の宿泊代への補助をいただきました。さらに、受験生対象の学科紹介パンフレットの作成費に対しても補助をいただいております。その他の活動については本年10月15日に開催されるあすなる会総会、懇親会にて事務局より詳しくご報告いたします。

【平成16年度あすなる会会長賞受賞者】

平成16年度あすなる会会長賞に下記の6名が決定し、平成17年3月25日湘南キャンパス本館52講義室において行われた学科卒業証書伝達式の会場にて、表彰状と記念品が赤塚あすなる会会長より贈呈されました。この賞は成績優秀で、しかも、本学科関連の分野に就職または進学する者を対象として、6ゼミより各1名ずつの計6名が受賞するものです。

小 松 純 一
(森林・緑地造成ゼミ 群馬県上野村森林組合)
牧 野 ゆ り
(林業経営ゼミ 東急コミュニティ)
小 宮 山 浩
(木材科学・工学ゼミ 日本大学大学院進学)
高 村 千 恵
(森林・緑地保全ゼミ JA三島)
富 田 哲
(森林動物ゼミ 東京農工大学大学院進学)
坂 上 真 理
(住宅・流通ゼミ 積水ハウス)

学科の近況

林木育種学研究室の佐々木恵彦教授が本年8月に定年退職されました。先生は平成8年に東京大学よりご着任後、本学部研究担当、学部長、日本大学副総長を歴任され、学科学部のみならず日本大学全体の発展に多大な貢献をされました。今後も先生が代表を務められているCOEの特任教授としてご活躍いただくことになっております。

本年4月より鈴木和夫教授(森林微生物学研究室)、阿部和時教授(森林環境保全研究室)、吉岡拓如助手(森林利用・住宅研究室)が着任されました。

鈴木先生は前東京大学大学院農学生命科学研究科教授で、日本学術会議会員、樹木医学会会長、日本林学会会長、国際森林研究機関連合理事などを務めておられます。



鈴木 和夫 教授

阿部先生は本学科をご卒業後、東京農工大学大学院修士課程を経て林野庁林業試験場に入庁され、水土保持研究領域山地災害研究室長を務めておられました。

吉岡先生は東京大学農学部卒業後、同大学院博士課程を修了されておられます。先生方の今後の更なるご活躍が期待されます。



阿部 和時 教授



吉岡 拓如 助手

事務局より

本年の理事会および懇親会は9月17日(土) 午後3時より日本大学生物資源科学部湘南キャンパス10号館2階第3・4演習室にて行い、懇親会は午後5時より本館地下1階カフェテリアにて行います。さらに、2年ごとに開催の総会および懇親会が10月15日(土)午後3時より新高輪プリンスホテル国際館パミール1階曙光にて開催されます。皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加下さい。

会員の方々の動向を的確に把握するため、住所や氏名の変更などがございましたら、お手数でも事務局までご一報下さい。

(宮野 則彦)

桜 水 会

◇海洋生物資源科学科◇

連絡先 海洋生物資源管理科学研究室
0466-84-3689 事務局長 吉原 喜好
E-mail:yoshihara@brs.nihon-u.ac.jp

平成17～19年度桜水会 役員が決定

来る6月25日(土)午後3時より湘南キャンパス10号館において平成17年度理事会・代議員会が、また同4時から平成17年度総会が開催され、平成16年度事業報告、決算報告、監査報告、平成17年度事業計画、予算報告などが行われました(出席者35名)。本年度は新たに学科と共同で学科紹介パンフレット(3000部)を作成することとなりました。次いで平成17～19年度役員について協議し、会長に吉田良之氏(15期)、副会長に田中一秋氏(12期)ならびに鳥居太郎氏(13期)、会計監事に山内正敏氏(12期)ならびに牛島博之氏(16期)が選出されました。平成14～16年度役員の方々、3年間お疲れ様でした。

続いて会場を食堂棟3階(NUホール)に移し懇親会を行いました。会員、学科教員、計39名に加え、準会員である学生50名も参加し、大変盛大な会となりました。

学会賞の受賞

水産タイムズ社取締役編集部長の辻 雅司氏(24期)は、冷凍すり身産業の展開に関

する研究に着手され、平成16年3月に本学より博士(生物資源科学)の称号を授与されましたが、さらに一連の研究が評価され、平成16年11月には地域漁業学会中楯賞を、また平成17年5月には漁業経済学会の学会奨励賞を受賞されました。これまでも桜水会会員の水産学会賞(奨励賞、技術賞)受賞例はありますが、社会科学分野で、しかも2学会から受賞の快挙は初めてであり、校友としても大変うれしい限りです。ご研究の今後一層の発展をお祈り申し上げます。

学科人事

本年4月より鈴木美和助手(海洋生物生理学研究室)が着任されました。先生は平成13年9月に東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻博士後期課程を修了され、その後、特定研究員を経て

本学に採用となりました。先生の今後のご活躍が期待されます。また小島隆人助教授は日本大学海外派遣研究員(長期)としてフィリピン大学において研究を遂行され、本年3月に無事ご帰国されました。

本年4月25日早朝、元教授の日比谷京先生がご逝去されました。先生は馬堀校舎の時代から非常勤講師として教鞭を執られ、東京大学農学部をご退職された後は、教授として本学部・学科の発展にご尽力を頂きました。先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(杉田 治男)



鈴木 美和 助手



水産タイムズ社 取締役編集部長 辻 雅司氏(職場にて)

工 学 会

◇生物環境工学科◇

連絡先 環境土木施設工学科研究室
0466-84-3692 事務局長 青木 正雄
E-mail:maoki@brs.nihon-u.ac.jp

工学会第15期理事が選出される

平成17年6月4日(土)14時より理事会が、15時より役員会が開催された。一般経過、平成16年度会計決算、監査、平成17年度事業計画案、平成17年度会計予算案の順で報告ならびに審議され、すべてについて全会一致で了承された。審議事項修了後、監査委員が2氏(平成5年卒)に交代する旨が報告了承された。この後、第15期理事の選出が行われ下記の理事が選出された。

会 長 酒川 和男(昭和47年卒)
副 会 長 鈴木 重則(昭和52年卒)
工 藤 謙一(昭和58年卒)
会計理事 内藤 泰征(昭和57年卒)
理 事 岩川 重雄(昭和38年卒)
戸崎 紘一(昭和39年卒)
陣尾 友行(昭和42年卒)
酒井 一夫(昭和43年卒)
新井 宏枝(昭和44年卒)
比留間速男(昭和48年卒)
河野 廣(昭和51年卒)
玉川 雅仁(昭和54年卒)
田上もと子(昭和60年卒)
加古 師幸(平成2年卒)

なお、新理事より村田前会長は相談役を委嘱され、今後も工学会のためにご尽力いただくことになった。また、事務局長は齋藤先生より青木先生に交代することとなった。

学科の動向

【人 事】

学科主任教授が本年4月より、世良田和寛先生から瀬尾泰久先生に交代となりました。3月に退職された木谷収先生が、日本大学大学院総合科学研究科教授に着任されました。先生方におきましては益々のご活躍をお祈りもうしあげます。また3月をもって、松木千紗副手が退職されました。6年間、学科のためにご尽力頂き誠にありがとうございました。

本年4月、私、藤沢直樹が助手として建築・地域共生デザイン研究室に着任致しました。私は平成6年3月に本学農業工学科を卒業後、本学大学院生物資源科学研究科生物環境科学専攻博士後期課程を修了後、本学に採用となりました。今後、学生指導や研究活動に全力で取り組む次第です。よろしく願い致します。また、退職された松木副手の後任として、黒田有希子副手が着任されました。黒田さんは平成15年3月、本学科を卒



藤沢 直樹 助手



黒田有希子 副手

業後、国際地域開発学科の副手として本学部に勤務されていましたが、本年より本学科の副手として勤務することになりました。学科のためにご尽力願いたいと思います。

【学科交流・懇親会】

昨年、平成16年11月20日(土)に本学科教員を招いての交流・懇親会を実施しました。多くの先生方の出席をいただき14時からの交流会に引続き16時からの懇親会では本学科の更なる発展について意見交換がおこなわれました。

【研究・賞】

本年5月16日(月)、都 甲洙先生とOBの工藤謙一氏(昭和58年卒、現在東京大学工学系研究科助手)が『凍結ゼラチンゲル内氷結晶の非破壊計測法に関する研究—誘電特性を利用した氷結晶構造の推定—』のテーマで日本冷凍空調学会より日本冷凍空調学会賞学術賞を受賞されました。おめでとうございます。両氏の今後のさらなるご活躍を期待したいと思います。なお、工藤氏は1998年度日本精密工学会賞も受賞していますので2回目の栄誉となります。

(藤沢 直樹)

F T 会

◇食品科学工学科◇

連絡先 食品学研究室
0466-84-3981 事務局長 竹永 章生
E-mail: takenaga@brs.nihon-u.ac.jp

F T 会活動報告

【平成17年度F T会理事会開催】

平成17年度F T会理事会が平成17年4月9日、本学湘南校舎において行われました。理事会では平成16年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。平成17年度事業計画案および会計収支予算に関して報告され、承認されました。

【F T会40周年記念式典および平成17年度F T会総会】

F T会40周年記念式典が平成17年6月11日に品川プリンスホテルにて盛大に行われました。記念式典は学科創立当初からご尽力いただいた露木英男氏の乾杯の音頭によ



総会



懇親会

り始まり、いたるところで校友となつた話や近況などが交わされていました。また、記念式典に先立ち、平成17年度F T会総会が関村会長の挨拶で開会し、平成16年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。さらに、平成17年度事業計画案および会計収支予算に関して報告され、承認されました。

【準会員（在学生）への活動】

平成16年12月8日にF T会補助のもと、3年生と教員との懇親会が盛大に行われました。また、平成16年3月25日には第40期学生の中から学業および人物優秀な学生へ贈られるF T会長賞を授与致しました。平成16年度は大橋いく子さんが選ばれ、金一封が贈られました。最後に、平成17年5月28日に行われたスポーツフェスタでは参加した新入生へ飲料物を補助いたしました。なお、成績は優勝まであと一歩でありましたが、スポーツフェスタはたいへん盛り上がりしました。

学科の近況

【新任】

昨年度、退職された泉谷朋子副手の後任として坪野純子副手（平成17年3月本学農芸化学科卒業）が着任されました。

【昇格】

古川壮一先生（食品微生物学研究室）および鳥居泰好先生（食品学研究室）が平成17年4月1日付で専任講師に昇格されました。

【海外留学】

古川壮一先生が平成17年4月より1年間、アメリカ・ダートマス大学に留学されました。

事務局より

会員の方で、住所変更や改姓などがございましたら、ご面倒と思いますが、ぜひ事務局までお知らせ下さい。

（阿部 申）



スポーツフェスタ2005

拓 友 会

◇国際地域開発学科◇

連絡先 国際経営研究室
0466-84-3457 事務局長 早川 治
E-mail: osamu@brs.nihon-u.ac.jp

平成17年度総会開催

平成17年6月25日午後2時より日本大学生物資源科学部国際地域開発学科会議室において近藤顧問をはじめ、内田会長、谷地副会長、横塚副会長、望月正明、貝塚英雄、小俣勉、木之内良衛会員らが出席し平成17年度拓友会総会が開催されました。

まず、内田俊太郎会長の会長挨拶があり、議長に谷地三知也副会長を選出し、次の議題について早川事務局長が説明し、審議されました。

第1議案 平成16年度事業報告の件

第2議案 平成16年度決算報告・監査報告の件

第3議案 平成17年度事業計画の件

第4議案 平成17年度会計予算の件

第5議案 新役員(平成17年～19年度)の件

第6議案 その他(拓友会60周年について)

平成19年度は拓友会60周年なので、今から少しずつ考えておこうということになりました。以上いずれも承認され、総会を終了しました。

総会終了後、午後3時から4時まで、OG・現役学生による学術報告会が次の通り行われました。

1. 平成14年度卒業、小泉友紀さんによる青年海外協力隊としての活動報告(土壌肥料の専門家、コスタリカ)(林ゼミ)



コスタリカについて報告する 小泉友紀さん

2. 4年時学生須藤ひさよさん、三沢百絵さんによるフィリピン研修報告「フィリピン社会におけるジェンダー」(増見ゼミ)

その後、4時から懇親会が開催され、教員、



懇親会での懇談

学部学生約20名も参加しOB・OGとの交流に花を咲かせていました。

学科の動き

【ガーナ海外研修】

国際地域開発学科では平成17年からガーナ大学での海外研修を行うことになり、平成17年8月19日～9月5日まで、学生15名が増見教授、藤田専任講師、山口副手に引率され、「営農調査・技術協力フィールド・サイエンス・アプローチ実習等」を行いました。なお、学外実習1単位がつくことになっています。

【昇格】

キンシュク・ロイ先生が平成17年4月1日、専任講師から助教授に昇格されました。地域環境保全工学等を担当されています。今後のご健闘をお祈り致します。

【新任】

益富桜子副手 中央大学総合政策学部を卒業、東京都出身、趣味は旅行とのこと。よろしくお願いします。



益富 桜子 副手

【退任】

黒田有希子副手 4月から生物環境工学科に配属転換になりました。2年間ありがとうございました。

（緒方 行廣）

むつあい会

◇短期大学部農学科◇

連絡先 環境生態学研究室
0466-84-3747 事務局長 浅野 紘臣
E-mail: asano@brs.nihon-u.ac.jp

50周年式典の開催

むつあい会の総会・懇親会は、例年6月中旬に開催していました。しかし、本年はむつあい会50周年記念式典が平成17年10月22日(土)に開催されます。このことについてむつあい会々報第27号において、また、日本大学生物資源科学部校友会会報(第57号)においてもご連絡いたしました。次号に50周年式典の模様を掲載する予定です。

学科の近況

【在籍数】

平成17年度の入試は2.9倍(昨年4.0倍)と、昨年に比べやや倍率をさげましたが、農学系の学科としては健闘しています。4月には、51名(うち女子28名)の新入生を迎えました。



課外活動:サークル・コロボックル

現在2年生は58名(うち女子28名)が在籍し、合計109名の準会員が在籍しています。

【卒業生の進路】

平成17年3月25日に、55名(53期)が卒業して正会員となりました。卒業生の進路は、編入学が30名(生物資源科学部へ24名、他大学6名)、専門学校7名、就職5名、自営2名、その他11名でした。卒業生の累積数は、3,448名となりました。

【退職】

武田恭明教授(応用花学研究室)は、平成17年7月12日付けで定年退職されました。先生は、第一園芸株式会社取締役(第一園芸プランテック研究農場長兼務)から、農学科の教授として平成7年4月に着任されました。現在まで10年余りにわたり、農学科の教育、研究に多大な貢献をなさいました。先生は、引き続き3月末まで非常勤講師として学生の教育、研究に当たられています。その後は、郷里の滋賀県草津市において原点にかえり、花の栽培農家と花の生産について対応、また、花の文化などについても研究をしてみたい



フィールド観察:特別演習

と語っておられました。先生のこれまでの大学に対するご尽力に感謝するとともに、今後ともご健康でご活躍されることを祈念いたします。

事務局より

【原稿募集】

むつあい会々報では、広く会員から原稿を募集しています。学生時代の思い出や社会人になってからの体験など何でも結構です。字数は500-800字(写真添付歓迎)、体裁は自由です。ふるってご応募下さい。

【事務局員の交代】

むつあい会事務局長は青山友雄教授から浅野紘臣教授、会報編集幹事は寺澤輝雄教授から渡辺慶一教授に交代しました。なお、事務局は2年ごとに交代しむつあい会の事務を取り扱います。宜しくお願いいたします。

【ホームページ】

農学科および研究室の紹介は、以下のURLで公開しています。是非ご覧下さい。

<http://www.jha.brs.nihon-u.ac.jp>
(浅野 紘臣)



夏休みの実験室:卒業研究

生活環境学科校友会

◇短期大学部生活環境学科◇

連絡先 短期大学部生活環境学科
0466-84-3750 事務局長 飯塚 統
E-mail: jh-amigo@brs.nihon-u.ac.jp

2004年度校友会 総会・懇親会の開催

2004年度の総会・懇親会は、11月13日(土)午後5時30分より横浜中華街にある「萬珍楼」において開催されました。土曜日の開催ということもあってか、多くの方々にご出席いただきました。懐かしい顔も多く、おいしい料理に舌鼓を打ちながら近況報告や昔話に花を咲かせて、楽しいひとときを過ごすことができたようです。

学科の近況

【卒業生】

2005年3月に106名が無事卒業しました。卒業後の進路は、生物資源科学部編入48名、他大学編入13名、専門学校13名、就職14名、その他はアルバイト・家事などでした。他大学への編入は島根大学、山形大学、東京農業大学などがあげられます。また就職については、日本大学をはじめとして、はまぎん事務センター、文教センター、ワイピーシー等様々な分野への進路実現を果たしています。

【在学生】

本年度の入試は倍率1.3倍と昨年度の1.7倍より率を若干落としましたものの、4月には93

名の新入生が入学しました。生活環境学科としては2年生と合わせて195名の学生が在籍しています。なお今年の入学生は男子40名、女子53名とまだ女子学生の優位は続いているようです。

本年も新入生を迎えて、4月14・15日に軽井沢研修が行われました。在学生が春休み中から企画していたウォークラリーを皮切りに、ゼミ紹介や履修指導のほか、本年度より導入されたグレード・ポイント・アベレージ(G P A)制度の説明など、例年



軽井沢研修

にもまして熱気のこもった研修でした。

近頃「小さな政府」という言葉がメディアにぎわっていますが、生活環境学科は「顔の見える小さな学科」として常に和気藹々とした雰囲気を保っています。昨年のスポーツフェスタでは綱引き部門で一位になりましたが、本年は大縄跳び部門で一位となりました。また今年は選手のブラカードも作って応援していたようです。どうも本学科は「息を合わせる」ことが得意なようです。これも小さな学科の効用でしょうか。

【新任】

志澤泰彦専任講師(教養・化学)と松橋明宏専任講師(教養・体育)の二人が新任としてお見えになりました。お若い先生方の活躍を期待しております。なおこれで生活環境学科の構成は教授3名・助教授2名・専任講師3名・助手1名の9名体制となりました。

事務局より

今年の総会・懇親会は11月中旬に東京を会場として実施いたします。詳細は改めてご連絡差し上げることとなります。学科長の飯塚先生をはじめ諸先生方も皆様にお会いすることを楽しみにしておりますので、ご友人とお誘い合わせの上、是非ご参加ください。

会員の方で住所変更や改姓がございましたら、お手数ですが上記までメールかお葉書にてご一報ください。

【ホームページアドレス】

<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/~jh-amigo/>
(蒲原 義明)



志澤 泰彦専任講師



松橋 明宏専任講師

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 蛋白質科学研究室
0466-84-3700 事務局長 司馬 肇
E-mail: chang@brs.nihon-u.ac.jp

応用生物科学科の近況

【在 籍】

現在応用生物科学科の在籍学生数は572名(男子332名、女子240名)で、学年別では4年生156名、3年生136名、2年生137名、1年生143名となっております。大学院に関しては、応用生命科学専攻に在籍している本学科の学生数は博士前期課程20名、博士後期課程6名となっております。

【異 動】

本年4月1日付で、綾部真一先生が植物細胞学研究室の教授となりました。また、昨年、専任講師として本学短期大学部農学科に赴任されました岩淵範之先生は本学科の専任講師となりました。所属は以前と同様分子微生物学研究室であります。両先生の今後の更なるご活躍が期待されます。副手の松澤明恵さんは新設の動物医科学センターへ所属替となりました。短い間ではありましたが、本当にお世話になりました。心より御礼申し上げます。今後のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

【新 任】

本年4月1日付で花澤重正先生が生体制御学研究室の教授として着任されました。花澤先生は日本大学総合大学院の教授で

もあります。本学科では学生実験と細胞応答学を担当しております。先生の今後のご活躍が期待されます。本年4月1日付で松澤さんの後任として遠藤慈子さんが副手として着任されました。遠藤さんは今年3月に本学科を卒業したばかりであります。4年生のときは生体制御学研究室に所属しておりました。現在、学生実験や大学院の事務を一生懸命に行っております。

【海外留学】

苦名充先生は留学のため、今年の3月にアメリカ合衆国、メイン州にあるMount Desert Island Biological Laboratoryへ行かれました。留学期間は1年間です。

事務局より

皆様もご存知の通り、今年は応用生物科学科校友会の総会を開催する年であります。昨年に行った応用生物科学科校友会総会開催に関するアンケート調査の結果では、開催場所として本学科の湘南校舎を希望する



高校生に研究の説明をする4年生
オープンキャンパスにて

方が最も多く、東京周辺のホテルが2番目に多かった(1位の約半数)。開催時期として、10月中旬または下旬を希望する方が最も多く、8月が2番目に多かった。この結果に基づいて、事務局では、開催場所を本学科の湘南校舎とする方向で検討しております。開催時期に関しては準備の都合上11月以降となる予定であります。開催の日時及び場所が決まり次第、葉書にて会員の皆様にご連絡申し上げます。一人でも多くの会員が応用生物科学科校友会の総会に参加してくださいよう期待しております。

応用生物科学科校友会が発展するためには、会員の皆様方のご参加は不可欠であります。事務局では、できる限り皆様のご要望に応えていきたいと考えております。どうか、校友会の運営や活動について多数のご意見、ご提案をお寄せください。

最後に、住所の変更、改姓、問合せ等ございましたら、お手数ですが、事務局までご連絡ください。(司馬 肇)



実験動物の紹介をしている4年生
オープンキャンパスにて

支 部 だ よ り

宮城県支部の近況

連絡先

〒981-3131 仙台市泉区七北田字町31
小野事務所 小野 隆
TEL.022-372-4637 FAX.022-374-8844
E-mail: takashi@enax.net



昨年7月に設立されました宮城県支部は、第2回目の総会を平成17年6月26日土曜日午後3時より、仙台駅東口の「仙台ガーデンパレス」で開催されました。

来賓として、学部校友会より富澤 寿樹副会長、山形県支部より安達 勇副支部長、そして地元の校友会宮城県支部より深松 勇副支部長にご臨席いただき、ご祝辞を賜りました。

第一部の総会は、小野 隆支部長が議長となり議事を進行し、事業報告、会計報告、事業計画、収支予算等を審議し、すべて原案どおり可決されました。特に支部会員への周知の方法、事業参加者拡大の方策につきまして、ご提案、ご意見をいただきました。

第二部の講演会は、来賓としてご臨席いただいた学部校友会の富澤 寿樹さまに「生物

資源科学部の現状について」と題して、学部、校友会の現状と将来像についてなど、ご講話を拝聴いたしました。

第三部の懇親会は、持丸 祐幹事の司会で開会し、千葉 達副支部長の開会挨拶に引き続き、来賓の深松 勇様のご発声により、元氣よく乾杯を致しました。

その後、懇談に入り各自より自己紹介、近況報告などをスピーチしていただき、和やかな雰囲気の中で楽しいひと時をすごしました。

時間の過ぎ行くことも忘れ、和気藹々と人生を語り合い、友情を暖めあい、次回の再会を約束して、締めは宮城県支部恒例の「正調日大節」を全員で声高らかに歌い、名残残さない散会となりました。

(事務局 長 櫻田 昇)

山形県支部の近況

連絡先

〒990-2433 山形市鳥居が丘4-55
日本大学山形高等学校 池田 卓郎
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail: t_ikeda@ymgt.hs.nihon-u.ac.jp



平成17年度山形県支部総会は平成17年2月19日(土)天童温泉「つるや」にて会員35名

出席、本部校友会より富沢寿樹副会長、中西五十教授、宮城県支部の小野隆会長、地元からは日本大学山形高等学校坂野忍校長、及び日本大学校友会山形県各支部の支部長等の来賓をお迎えして開催された。

総会は安達勇副支部長の開会、櫻井麻男支部長挨拶の後、議長に武田昇(国際地域学科平成3年卒)を選出し、提案された会務会計報告及び収支予算(案)等審議、すべて原案通り承認、可決された。その他では、今後少子化等が進む中での校友会及び県支部の強化策についての発言があり、全国各県に支部を設置すべき等、富沢副会長も交え活発な意見交換が行われた。

総会終了後講演会に移り、今年は学部の中西五十教授から「六会の地に50年」と題し、実践教育の日本大学生産教育研究所での学生時代からデンマークやヨーロッパ諸国の畜産情勢、農場管理や低コスト生産の取り組み状況まで苦勞話を交え講演をいただいた。特に豆腐粕、パン屑サイレーズ等未利用資源利用による低コスト飼育技術の確立に努力された話は大きな感銘を受けた。講演会終了後は、富沢副会長より本校友会の近況について話をいただき、小松文副支部長の閉会の挨拶があり、総会全日程を終了。

懇親会は、来賓の経済学部校友会加賀山隆士支部長、工科系校友会小林高明支部長から、各支部の活動状況を紹介いただき、山科朝雄前県議会議長の乾杯で開宴する。時間と共に盛り上がり学科毎の自己紹介やカラオケ自慢などあり、盛会のうちに終了した。

(櫻井 麻男)

山梨県支部の近況

連絡先

〒405-0017 山梨市下神内川187-1
支部長 小越 昭雄
TEL.0553-22-2400

平成17年10月22日(土)
午後3時30分よりJR
中央線石和温泉駅前通り
ホテル糸柳にて創立20
周年の県支部総会並びに
懇親会を開催致します。
大学から内田俊太郎副会
長、石川稔矩代表幹事、世
良田和寛事務局長、県内
から金丸種男県支部長等の来賓をお迎えし、
会員多数の参加を得て盛会となりますよう
願っております。



古屋 勝美氏

総会は、経過報告、支部旗の紹介、会計と監
査報告、役員改選等が主議題です。役員改選は、
支部長、事務局長、事務局理事の改選、副支部
長、理事、監事、の補充等です。

次期支部長は、長年JA全農やまなしに勤
務され、部長、企画室長の要職をされた古屋
勝美氏です。総会で可決されますと理事は39
名となります。又、理事、監事として3人の支
部長のもと長期にわたり活躍され、今期をも
って退任される丹沢崇仁氏には、衷心より感
謝致します。総会の席において改めてお礼申
上げます。総会の最後には、内田副会長に「学

部長のもと長期にわたり活躍され、今期をも
って退任される丹沢崇仁氏には、衷心より感
謝致します。総会の席において改めてお礼申
上げます。総会の最後には、内田副会長に「学
部の近況について」講話をお願いする予定です。
よろしく願い申し上げます。

懇親会は、支部旗のもと楽しく賑やかに杯
を揚げたいと思います。(小越 昭雄)

高知県支部の近況

連絡先

〒780-0084 高知市南御座9-19
事務局 前川 卓也
TEL.088-880-0538
E-mail:maekawa@mb.inforioma.or.jp



去る8月27日(土)高知市の料亭「葉山」に
おいて、第16回高知県支部が開催されました。
ご来賓の茂澤本部校友会会長、富澤寿樹前副
会長、日本大学校友会高知県支部の有澤会長
を県内各地から集まった校友が囲み23名の
出席者となりました。

総会は中西支部会長挨拶、平成16年度事業
および収支決算報告承認ののち、役員改選が
おこなわれ、新会長に森田稔雄氏(畜産21期卒)、
新副会長に中西孝彦氏(林18期卒)がそれぞれ
選任されました。理事につきましては全員留
任となりました。つづいて平成17年度活動方
針および予算と滞りなく進み、引き続いてご
来賓からのお祝いのことばを頂戴致しました。

茂澤会長からは「大学は過去の学生を選ぶ立
場から学生や企業に選ばれる立場になっている。
真に社会に貢献できる大学となるよう研鑽を
つづけねばならず、校友会も大学の活動を支え
るべく改革を続ける。」と再任にあたっての重
みを感じさせる強い決意をお話いただきました。

富澤氏からは「日本大学は全国から学生を
集めてきたが、近年関東周辺出身の学生が多
くなり徐々に地方出身の学生が減ってきて
いる。地方の人材を大学に送り込んでいただ
いて大学の発展、地方の支部発展に勤めてい
きましょう。」とご挨拶いただきました

続いて有澤高知県支部会長に県支部の活動
状況をお話いただき乾杯の音頭をとっていただ
いて懇親会が開催されました。今回初参加
の会員も数名おり、はじめはやや緊張もあつ
たようですが、そこは高知の宴席のこと、すぐ
に賑やかにあちこちで笑いの輪が出来ました。

最後に全員で校歌を斉唱し、森田新会長の
音頭で日本大学にエールを送ってお開きと
なりました。

(事務局長 前川 卓也)

校 友 だ よ り

明確な vision の設定

平成11年度 日本大学大学院農学研究科畜産学専攻博士
前期課程終了 佐藤 崇之

現在、私は武田薬品工
業株式会社に創薬の研究
に携わっています。今年
で入社3年目となりました。
入社前は東北大学大学院医学系研究科
の博士課程に4年間在
籍し、T細胞と抗原提示
細胞とのinteractionに関わるco-
stimulatory moleculeについての研究に従
事していました。さらにその前は、日本大学
農獣医学部畜産学科および同大学大学院農
学研究科畜産学専攻の修士課程に所属して
いました。私の研究生活は、この日本大学時
代の学部3年時に、動物育種学研究室へ入室
したところからスタートしました。ここでは、
自分はラット乳汁中のプロラクチンについ
ての研究をしていました。入室前の面接では
大学院への進学希望を伝えたものの、当時は、
研究の基礎も知らず、単に研究という言葉に
憧れているだけの、非常に安易で漠然とした
気持ちだけで、この世界に飛び込みました。
このような姿勢で始まった研究生生活でしたが、
次第に研究に対する楽しさを感じるようにな
り、同研究室で充実した4年間を過ごすこ
ととなった訳です。そして、この間に生涯、研
究に関わる仕事をして行きたいという気持ち
が芽生えるようになり、就職活動に臨みまし
た。しかし、この時は研究職に就くことが
出来ず、他業種を考えることもありました。
それでも、自分は研究したいという気持ちが
強く、博士課程への進学という選択をしました。
私は、決して優秀という訳ではなく、また、こ



の選択が将来の自分の研究者としての立場
を保証する訳でもありませんでした。

結果として、私は研究職に就くことが出来
ました。この状況を作り出したのは、研究者
になるという明確なvisionを設定し、それに
対するmotivationを保つ事が出来たことが
大きな要因の1つだと思っています。また、自分
の周りで支えとなって下さった方々と運に
恵まれたことも大きな要因です。これからも、
visionの明確化と人との絆を大切に生きて
行きたいと考えています。

常に「？」の発想で！

平成7年度 林学科(現・森林資源科学科)卒業

吉良 達

現在私は、静岡県天竜森林組合において林業
の機械化に取り組んでおります。皆さんもご存
知のように、日本の林業は衰退の一途をたど
っております。しかし私が思うに、日本の林業
界は、国際競争力が無いだけであって、他産業
のようにマネジメントをしっかりとれば、必ず
主要な産業になりうる可能性を持ち、人間が生
存していくには必要な産業でもあると思っ
ています。では、そのようにするためにはどうし
たらよいのか？

Iターンで、何のしがらみも持っていないか
つた私には、いくつかの考えが浮かびました。そ
して、その中から現場で何が出来るのかを考え、
一つの答えが、遅れている林業の機械化でした。
しかし、専門家とは、どうしても考え方が集中
しがちで、この業界では、「これ、どうにか工夫で
きるんじゃないの？」と思う場面が多く、当たり前
のことに對しても、発想を転換させることは非
常に難しいようです。確かに「職人気質の技」も
大事なのですが、それを生かせる環境がなければ
何にもならないのです。

この地域で、機械システムを構築する間、周
囲に相談できる人はるくにおらず、前例もあま
り無かったので、自分で調べ、研究するほかあ
りませんでした。親方からは、「邪道だ」といわ
れることも多々ありました(現在もおおそうです
が...)。

しかし、それにめげることなく(頑固なのかも
しれません)、油圧関係の理工学書を読み、ヨー
ロッパの林業国へも何度か足を運び、自分なり
の方法を模索してきました。その結果、平成17
年度間伐・間伐材利用コンクールの林業事業体
による森づくり部門で、林野庁長官賞を受賞す
ることができました。

これからも、常に「もしかして?」という発想を
持ち、素頭の状態を保ち続けられるように心がけ、
日本の林業の活性化を実現したいと考えており
ます。

工場ならではのモノ造りの楽しさ

平成14年 海洋生物資源科学科卒業

平成16年 大学院生物資源生産科学専攻博士前期課程修了
黒崎 幹平

私は平成16年にキュー
ビー(株)に総合職として
入社し、工場配属となり
ました。多くの方が最近の工
場は機械によって自動化
され、人はほとんどライン
に入らないと思っている
のではないのでしょうか。私
も入社前はそう思っていたのですが、実際は人
による作業がたくさんあります。もちろんファ
クトリーオートメーション(FA)システム、小
分けシステムなど自動化されていることもあ
ります(各システムについては当社HP参照)。
しかし、どんなに優れたシステムも使うのは人
[次ページへ]



(前ページより)

間ですし、配管の分解洗浄や組み付け、原料を検査する、原料を小分けする、タンクに原料を投入するといったことは全て人の手で行います。そのため工場では安心してお客様に食べていただける製品をつくるために、作業への教育や細かい気配りが非常に大切です。

また、新製品も含めて出来立てのドレッシングを味見することができること、自分が造った

ドレッシングがスーパーなどで売られていて、お客さんが購入される所を見て嬉しくなるなど、工場ならではの醍醐味もあります。

今日の食品業界では一連の不祥事もあり、お客様の「品質、安全、安心」に対する意識は非常に高いものにあると思います。キュービーは創業以来こだわっている品質とお客さまからの信頼を大切に、自分たちが自信を持って、なおかつ、

安心して食べられる製品以外はお客様に届けられないと考え、日々製造を行っています。そうした品質にこだわりながらドレッシングの製造を行い、改善活動や作業への気配りも忘れずに行っています。

最後になりますが、後輩の皆様が各業界で活躍されることを心からお祈り申し上げます。

◆ 校友会事務局からのお願い ◆

【会 報】

会報の校友・支部だよりを募集していますので、近況を報告されたい方、原稿をお待ちしています。応募についての詳細は校友会事務局までお問い合わせ下さい。

- ・校友会報への広告を募集しております。校友会事務局までご連絡下さい。
- ・校友会報をホームページで見えるから郵送しなくて結構という方各分会事務局までご連絡下さい。

【学部祭】

本学部の学部祭は例年10月最後の土曜～月曜日にかけて開催されています。校友の皆様のご来場をお待ち致します。

ております。また、校友会事務局は1号館2階ですでお立ち寄り下さい。なお、今年の学部祭は10月29日～31日です。

【募 集】

日本大学校友会正会員を募集しております。

入会を希望される方は右記へご請求下さい。

〒102-8275 千代田区九段南4-8-24

日大 i クラブ事務局

T E L 03-5275-8469

E-mail iclub@adm.nihon-u.ac.jp

【その他】

住所変更、就職先の変更等をされた方は氏名、卒業年、住所、電話番号、勤務先、

電話番号を各分会事務局までお知らせ下さい。なお、個人情報保護法に基づき校友の連絡以外には使用致しません。

■ 訃 報



校友会事務局で校友のために数十年ご尽力いただきました赤塚さんがご逝去されました。ご報告申し上げますとともに、深くご哀悼の意を示したいと思います。

日本大学生物資源科学部校友会 役員・事務局名簿

名誉会長	酒 井 健 夫	日本大学生物資源科学部 学部長
会 長	茂 澤 晃 (農化)	(株)モザワ
会長代理	楠 元 守 (植物)	
副 会 長	中 川 秀 樹 (獣医)	中川獣医科病院
"	内 田 駿 一 (動物)	(株)京王百貨店
"	村 山 進 (食経)	
"	赤 塚 敏 夫 (森林)	
"	吉 田 良 之 (海洋)	
"	酒 川 和 男 (環工)	中央開発(株)
"	関 村 具 由 (食科)	三凱商事
"	内 田 俊太郎 (国際)	千代田興業(株)
"	鈴 木 勝 春 (短農)	(有)ベルエーステート
"	福 井 祥 子 (短生)	三井住友銀行
"	大 谷 憲 司 (応生)	(株)スリオンテック
代表幹事	石 川 稔 矩 (植物)	日本大学松戸歯学部
"	江 刺 琢 磨 (農化)	
"	山 本 捷 (動物)	日本農産工業
"	栢 英 彦 (食科)	
"	谷 地 三知也 (国際)	(株)長崎屋
幹 事	勝 野 武 彦 (植物)	日本大学生物資源科学部
"	木 嶋 弘 倫 (農化)	豊栄産業(株)
"	長 尾 壮 七 (獣医)	日本ペット&アニマル専門学校
"	田 中 茂 男 (獣医)	日本大学生物資源科学部
"	丹 羽 美 次 (動物)	日本大学生物資源科学部
"	中 村 信 也 (食経)	
"	大 矢 祐 治 (食経)	日本大学生物資源科学部

幹 事	宮 島 吉 夫 (森林)	農林漁業信用基金
"	石 垣 逸 朗 (森林)	日本大学生物資源科学部
"	鳥 居 太 郎 (海洋)	
"	田 中 和 明 (海洋)	川崎水道局
"	鈴 木 重 則 (環工)	ファミリーマート阪東橋東口店
"	青 木 正 雄 (環工)	日本大学生物資源科学部
"	竹 永 章 生 (食科)	日本大学生物資源科学部
"	早 川 治 (国際)	日本大学生物資源科学部
"	飯 塚 崇 (応生)	理研香料工業(株)
"	司 馬 肇 (応生)	日本大学生物資源科学部
"	岡 元 哲 朗 (短農)	萩原造園(有)
"	浅 野 紘 臣 (短農)	日本大学生物資源科学部
"	渡 邊 健 介 (短生)	大成建設(株)
"	飯 尾 満 (短生)	日本大学生物資源科学部
相談役	櫻 木 進 (海洋)	
"	村 田 昇 (環工)	
"	富 澤 寿 樹 (短農)	(有)マルナカ
監 事	遠 藤 克 (動物)	日本大学生物資源科学部
"	千 田 徹 (食経)	
"	濱 本 和 敏 (森林)	日本大学生物資源科学部

【事務局】

事務局長	世良田 和 寛 (環工)	日本大学生物資源科学部
局 員	千 野 誠 (食科)	日本大学生物資源科学部
"	丹 羽 美 次 (動物)	日本大学生物資源科学部
"	川 西 啓 文 (環工)	日本大学生物資源科学部
"	稗 貫 峻 (食経)	日本大学生物資源科学部

会 報 編 集 委 員				桜 水 会 杉 田 治 男			
和 成				樹 申 廣 一 明 肇			
村 原 橋 室 田 野				沢 部 方 辺 原 馬			
野 荻 椎 山 磯 宮				藤 阿 緒 渡 蒲 司			
農 学 校 友 会				工 学 会			
紫 友 会				拓 友 会			
角 笛 会				む つ あ い 会			
満 喜 葉 会				生活 環境 学 科			
い も づ る 会				校 友 会			
あ す な ろ 会				応 用 生 物 学 科			

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会
〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
TEL・FAX 0466-84-3799
E-mail:koyukai@brs.nihon-u.ac.jp
編集・発行 会報編集委員会 委員長 関村 具由
印刷所 ベーシックプリント
TEL.048-833-3086 FAX.048-833-3128
E-mail:bphide833@yahoo.co.jp